

船の「しごと」「つくり」「できること」の3つの視点をもって読み取っていく。大事な言葉を丁寧に読み取ることで、「しごと」「つくり」「できること」の文がつながっていることや同じ文型が繰り返し出ていることから文末表現のきまりに気づくことができると考える。

第3次では、並行読書を通して、興味をもった乗り物について書かれた本を選ぶ。本を選んだ中で、自分が「すごい」「みんなに教えたい」と思ったことを大切にしながら、「しごと」や「つくり」、「できること」について書き抜き「のりものずかん」につなげていきたい。

(3) 指導について

指導にあたっては、研究内容に沿って以下の点を大事にしていく。

①導入の工夫

本単元では、「のりものずかん」をつくることをゴールとして設定する。これは、児童が見通しをもって教材文を学習しようという意欲をもたせるためである。

教材文の読み取りでは、初発の感想を生かしながら、学習計画を児童と立てる。

また、乗り物に興味をもつことができるようにブックトークを設定し、教材文の読み取りと並行して読書をしていく。その際、身近な乗り物のバスや救急車、消防車などの自動車の本を中心に選書し、学級に置く。本をすぐに手に取れる環境をつくることで、児童に新しい情報を得たり、分からないことを知ったりする楽しさを味わわせたい。また、自分が「のりものずかん」に書きたい乗り物を見つけられるようにもしたい。

②ワークシートの工夫

本文の読み取りをする段階では、単元を通して「しごと」「つくり」「できること」の構成に気づけるように色分けをしたワークシートを使用する。

「のりものずかん」をつくる段階で、自分が選んだ本から大事なことを書き抜くときには、教材文と同じ色分けをしたワークシートを使用する。ただし、児童が選んだ本が横書きのため、書き抜きをしやすいように横書きのワークシートにする。その際、教材文で3つの視点に沿って学習したことを生かすために「しごと」やみんなに1番教えたい「つくり」「できること」を選び、書き抜かせるようにする。最後に、それぞれが作成したシートを学級で1冊にまとめ「のりものずかん」を完成させる。

③個人差への支援の工夫

教材文の読み取りの段階では、「しごと」「つくり」「できること」がどこに書いてあるのかが分かるように、内容ごとに色分けをしてサイドラインや囲みの印をつける。そうすることで、視覚的にとらえやすく、児童が意欲をもって取り組んでいけると考える。言葉の意味などは、児童の経験等から想像できない場合は、写真や絵などの補助教材を提示し、想像をふくらませながら主体的に読み取れるようにする。

「のりものずかん」をつくる段階では、学校司書と相談して「しごと」や「つくり」が分けて書いてある、抜き書きしやすい本を用意する。また、「しごと」や「つくり」を見つけることに困難を示す児童には、どこに「しごと」や「つくり」が書いてあるのかを一緒に読んだり、教材文の読み取りに立ち戻って文末表現に注目して読んだりすることで、本から情報を見つけることへの抵抗を少なくしたい。

6 指導と評価の計画 (全13時間)

次	時	主な学習活動	評価規準	学校図書館の活用
第1次	1 2	学習の見通しをもつ ○乗り物について知っていることを話し合う。 ○全文を読んで、初発の感想を書き、学習計画を立てる。 ○学習の終わりに「のりものずかん」を作ることを知る。	○乗り物についての文章を読んだり、好きな乗り物について調べたりする活動に、興味をもって取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)	○ブックトーク 学校司書 ○本の見方 (目次、文字の大きさ、絵や写真) 司書教諭
第		内容の大体を読み取る	○乗り物の「しご	

並行読書



2 次	3～7 8	<ul style="list-style-type: none"> ○きやくせん、フェリーボート、ぎよせん、しょうぼうていの「しごと」「つくり」「できること」を読み取る。 ○説明の時に使われている言葉について、まとめる。 	<p>と」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけながら読んで、書き抜いている。(読む能力)</p>	
第 3 次	9 10 11 (本時) 12	<p>「のりものずかん」をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の好きな乗り物の本を選んで読む。 ○好きな乗り物の「しごと」を調べて書き抜く。 ○好きな乗り物の「つくり」「できること」を調べて書き抜く。 ○乗り物図鑑を仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○好きな乗り物について調べるために、乗り物について書かれた本や文章を選んで読んでいます。(読む能力) ○乗り物の特徴が伝わるように、ワークシートに書き抜いている。(読む能力) ○長音、拗音、促音、撥音や助詞の「は」「へ」「を」を正しく使って、書いている。(知識・理解) 	
	13	<p>乗り物図鑑の紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の「のりものずかん」の発表をしたり、友達の発表を聞いて感想を交流したりする。 ○学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き手に聞こえる声で話している。 ○話し手を見て聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「のりものずかん」を図書館に掲示する。

7 本時の学習 (11/13)

(1) ねらい 紹介したい乗り物の「つくり」「できること」の情報を本から書き抜くことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点 (☆) と評価 (◎)
0	1 前時の学習について振り返る。 ・乗り物の「しごと」を書いた。	☆前時とのつながりを意識させるために「しごと」を見つけて書き抜いたことを想起し、本時は「つくり」「できること」を見つけるというめあてをもたせる。
3	2 本時のめあてを確認する。 1ばん おしえたい「つくり」と「できること」をかきぬこう。	
5	3 「つくり」と「できること」の抜き書きの仕方を確認する。 ・「つくり」は、黄色の付箋に書き抜く。 ・「できること」は、緑のワークシートに書き抜く。 ・「つくり」は、中くらいの文字、「できること」は、小さい文字に注目して書き抜く。	☆例となる本を用いて書き抜きの方法を示す。 ☆本から自分が欲しい情報を見つけるために、本の文字の大きさに注目して、読むことを確認する。 ☆例示する自動車は、児童がよく知っているものにする。
15	4 自分が一番教えたい「つくり」と「できること」を抜き書きする。 ・はしご車の例 「つくり」: はしご 「できること」: ながいものでは50メートルものびる車もあります。げんばまでは、みじかくしてはしります。	☆「つくり」は、つくりの部分だけ書けるような大きさの付箋を用意する。 ☆自分で見つけることが難しい児童は、写真で「つくり」を見つけさせ、その「つくり」がどこに書かれているか文章と一緒に読みながら確認する。 ☆本と同じように横書きで書くことができるワークシートを用意する。 ◎「つくり」「できること」を選んで抜き書きをしている。(ワークシート)
30	5 ペアになり、交代で読み合う。	☆読み合う時には、「つくりとできることが書けているか」といった視点で聞くようにする。 ☆全体での発表の時に自信をもって話すことができるように「つくり」「できること」をワークシートに沿って順番に話すように声をかける。
35	6 抜き書きした「つくり」と「できること」の発表をする。	☆「つくり」「できること」を書き抜くことができているか確認しながら発表を聞くようにする。
40	7 本時の振り返りをし、次時への見通しをもつ。	☆児童の感想を見て、次時へつながるものを取り上げる。

(3) 本時の評価

十分満足とされる児童の姿	おおむね満足とされる児童の姿	支援を要する児童への具体的な支援
みんなに教えたい「つくり」「できること」を選んで書き抜いている。友達のカードを見て、「つくり」と「できること」が書かれているか見つけている。	みんなに教えたい「つくり」「できること」を選んで書き抜いている。	本のどこに「つくり」「できること」があるのか見つけにくい児童には、写真から「つくり」を見つけ、それについて書いてある文章と一緒に確認する。

(4) 研究の視点

- ・ワークシートを抜き書きしやすいように工夫したことは、児童が主体的に学習するのに有効だったか。(研究内容①ウ)
- ・「のりものずかん」作りに適した本を選んだことは、必要な情報を抜き出すために有効だったか。(研究内容①ク)